

科目NO.9

<b>分野</b> 専門基礎			
<b>科目名</b> 解剖生理学	<b>単位</b>	1単位	<b>開講時期</b> 1年次前期
	<b>時間</b>	30時間	
<b>講師名</b> 大崎 康吉	<b>実務経験</b>	歯科医師として医療機関に勤務	
<b>授業概要</b> 正常な人体の基本構造と生理的機能の関連を理解し、それらが疾病によってどのように変化し、加えて診断・治療によってその変化にどのように働きかけて回復過程を辿るのか考えられる土台を作り、その回復過程の中で看護ケアをどのように行えばいいのか根拠立てて考えるための基礎的能力を養う			
<b>到達目標</b> 1.人の栄養・代謝機能に関与する人体の構造と機能について説明できる 2.人の活動/運動機能に関与する人体の構造と機能について説明できる 3.人の排泄機能に関与する人体の構造と機能について説明できる 4.人の認知・知覚機能に関与する人体の構造と機能について説明できる 5.人の生殖機能に関与する人体の構造と機能について説明できる 6.人の防御機能に関与する人体の構造と機能について説明できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	オリエンテーション		
2	栄養・代謝に関与する器官の構造と機能	講義	
3	(消化器、内分泌、体液)	ポストテスト	
4			
5	活動/運動に関与する器官の構造と機能	講義	
6	(呼吸器、循環器、運動器)	ポストテスト	
7			
8	排泄・生殖に関与する器官の構造と機能	講義	
9	(腎、泌尿器、生殖器)	ポストテスト	
10			
11	認知・知覚に関与する器官の構造と機能	講義	
12	(脳・神経、皮膚、感覚器)	ポストテスト	
13			
14	防御に関与する器官の構造と機能	講義	
15	(血液、免疫、体温調節、浸透圧)	ポストテスト	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> 准看護科時に学んだ解剖生理学を復習して臨むと理解しやすい ポストテストを受けた後は必ず復習をしておく			
<b>評価方法</b>	ポストテスト15点 終了試験85点	合計100点満点	
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 解剖生理学 (医学書院)			
<b>参考文献</b>			

科目NO.10

分野 専門基礎			
科目名 生化学	単位 時間	1単位 15時間	開講時期 1年次前期
講師名 小迫 知弘	実務経験	大学の生化学教室に在籍中	
<b>授業概要</b> 生命現象を引き起こす物質とその化学反応について理解し、栄養・代謝のプロセスを掴んで看護の対象である人への理解に活かせる力を養う			
<b>到達目標</b> 1.生化学の基礎知識について言える 2.代謝と酵素の関係が説明できる 3.三大栄養素の構造・機能と代謝のプロセスが説明できる 4.遺伝情報とその発現について説明できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
1	化学の基礎知識・細胞の構造と機能	講義	
2	代謝のあらまし・酵素ビタミン	講義、ポストテスト	
3	糖質代謝	講義	
4	脂質代謝	講義、ポストテスト	
5	タンパク質代謝	講義	
6	遺伝情報	講義、ポストテスト	
7	シグナル伝達	講義	
8	ホルモン	講義、ポストテスト	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> ポストテスト解答後必ず振り返りをしておく			
<b>評価方法</b> ポストテスト 20点(5点×4) 終了試験 80点 合計100点			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学 (医学書院)			
<b>参考文献</b> わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために (ヌーヴェルヒロカワ)			

科目NO.11

<b>分野</b> 専門基礎			
<b>科目名</b> 病態生理学	<b>単位</b> 1単位	<b>開講時期</b> 1年次前期	
	<b>時間</b> 30時間		
<b>講師名</b> 福泉 忠興	<b>実務経験</b> 医師として医療機関に勤務		
<b>授業概要</b> 身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に生じる異常な変化について知り、看護の対象である人に現れている症状や徴候といった病的な状態について理解し、損なわれた生理機能の回復や失われた機能の回復のプロセスに関与する看護援助を根拠立てて考える力を養う			
<b>到達目標</b> 1. 疾病の基本について説明できる 2. 主要な疾病の概念、病因、症状・徴候・症候を含めて病態の成り立ちについて説明できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
◎ 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	オリエンテーション	講義	
2	基礎知識(循環障害、細胞・組織の障害、感染症、腫瘍、先天異常と遺伝子の異常)	ポストテスト	
3	栄養・代謝に関与する器官のしくみと病態生理(消化・吸収、体液)	講義、ポストテスト	
4	〃 (内分泌)	講義、ポストテスト	
5		講義	
6	活動/運動に関与する器官のしくみと病態生理(呼吸及び循環)	講義	
7		講義、ポストテスト	
8	〃 (骨・筋)	講義、ポストテスト	
9	排泄に関与する器官のしくみと病態生理(腎)	講義、ポストテスト	
10	〃 (泌尿器・消化器の一部)	講義、ポストテスト	
11	認知・知覚に関与する器官の仕組みと病態生理(脳・神経)	講義、ポストテスト	
12	〃 (皮膚・感覚器)	講義、ポストテスト	
13	生殖に関与する器官のしくみと病態生理(生殖器)	講義、ポストテスト	
14	防御に関与する器官のしくみと病態生理(免疫)	講義、ポストテスト	
15	〃 (血液・体温調節)	講義、ポストテスト	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b> 事前に解剖生理学を復習して臨む ポストテスト解答後必ず振り返りをしておく			
<b>評価方法</b> ポストテスト 20点 終了試験 80点 合計100点			
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座尾 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学 (医学書院)			
<b>参考文献</b> わかりやすい病理学(南江堂)			

分野 専門基礎分野			
科目名	単位	1単位	開講時期
病態論Ⅲ	時間	30時間	1年次後期
講師名	安川晋輔	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	江崎 嘉十	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	高濱宗一郎	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	上西秀則	実務経験	
<b>授業概要</b>			
疾病とその医学的対応（検査、治療、処置）という視点から、看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識の学習をする。			
<b>到達目標</b>			
皮膚系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
耳鼻咽喉系の疾患、症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
感染症の症状と病態生理、治療、検査、処置について理解できる			
多種多様な微生物について概略を知り、微生物を制御する方法、感染症発生への仕組みが理解できる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。			
◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。			
○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。			
○ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。			
○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
	皮膚系		
1	皮膚の構造と機能	講義 ポストテスト	安川 晋輔
2	表在性皮膚疾患	講義 ポストテスト	
3	真皮・皮下組織及び皮膚附属器の疾患、感染症	講義 ポストテスト	
	耳鼻咽喉系		
4	耳鼻咽喉科の基礎知識	講義 ポストテスト	江崎 嘉十
5	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
6	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
	感染症		
7	感染症とは	講義 ポストテスト	高濱 宗一郎
8	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
9	主検査、疾患とその治療	講義 ポストテスト	
	微生物		
10	人間をとりまく様々な微生物	講義 ポストテスト	上西 秀則
11	微生物の感染、感染とは。免疫。	講義 ポストテスト	
12	ワクチン、常在菌、細菌性ウイルス性食中毒、細菌感染（皮膚、粘膜、性病）	講義 ポストテスト	
13	細菌感染（呼吸器、消化器）	講義 ポストテスト	
14	ウイルス感染（全身、呼吸器、肝臓）	講義 ポストテスト	
15	ウイルス感染（免疫系、微生物感染と腫瘍） 真菌感染症	講義 ポストテスト	
	試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b>			
ポストテスト 30点			
筆記試験 70点			
<b>使用するテキスト</b>			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕 皮膚			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉			
医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕 アレルギー・膠原病感染症			
ヌーベルヒロカワ ビジュアル微生物学			
<b>参考文献</b>			

分野	専門基礎分野		
科目名	病態論V	単位	1単位
		時間	15時間
			開講時期 1年後期
講師名	村谷 浩	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	庄野 禎久	実務経験	医療機関において医師として勤務
講師名	尾崎 弘明	実務経験	医療機関において医師として勤務
授業概要	各器官（脳神経系、眼系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳神経系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。</li> <li>2. 眼系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。</li> </ol>		
DPとの関連	関連が深いもの◎、関連するもの○		
○	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
○	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
○	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
○	5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】			
時間	授業内容	方法	備考
1	脳神経系疾患の症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置	講義 ポストテスト	村谷 浩
2		講義 ポストテスト	
3		講義 ポストテスト	
4	疾患の理解：脳疾患（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳腫瘍、頭部外傷）、末梢神経障害、顔面神経麻痺、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症、脳・神経系の感染症、てんかん、認知症	講義 ポストテスト	庄野 禎久
5		講義 ポストテスト	
6	眼系疾患の症状とその病態生理、検査と治療・処置	講義 ポストテスト	尾崎 弘明
7	疾患の理解：機能の異常、部位別の疾患（網膜、硝子体、水晶体、緑内障など）、外傷	講義 ポストテスト	
8		講義 ポストテスト	
	終了試験		
受講上の注意	<p>准看護師課程で履修した解剖生理や疾患、解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>わからない語句や内容について調べておきましょう。</p>		
評価方法	ポストテスト（16点）、筆記試験（84点）		
使用するテキスト	井出隆文他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 2023 大鹿哲郎他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 13 眼 医学書院 2023		
参考文献			

分野 専門基礎分野			
授業科目名	単位	1単位	開講時期
治療論Ⅰ	時間	30時間	1年次
講師名	山崎京子	実務経験	管理栄養士
講師名	金子敬太	実務経験	理学療法士
<b>授業概要</b>			
1. 「人間」を対象とした新たな栄養学を学び、種々の疾病に対して適切な食事指導ができるようになる基礎を学ぶ。 2. リハビリテーションの歴史の変遷をふまえてリハビリテーションチームの特徴、チームにおける看護の役割・機能を学ぶ。			
<b>到達目標</b>			
1) 人間にとっての栄養の意義及び栄養素の種類とそのはたらき説明することができる 2) 栄養アセスメント及びライフステージと栄養ケアマネジメントのについて説明することができる 3) チームで取り組む栄養管理の活動と看護の役割について説明することができる 4) リハビリテーションの基本的考え方と動向について説明することができる 5) 患者の状態に応じたリハビリテーションの内容について説明することができる 6) 身体機能の維持向上のためのリハビリテーションの方法について説明することができる			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
◎	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
◎	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
◎	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
◎	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
◎	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
時間	授業内容	方法	備考
	栄養学		
1	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき	講義 ポストテスト	山崎京子
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝、食事と食品	講義 ポストテスト	
3	栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定	講義 ポストテスト	
4	ライフステージと栄養、栄養アセスメントの基本	講義 ポストテスト	
5	疾患・症状別食事療法 ①循環器疾患②消化器疾患③術前・術後の栄養管理	講義 ポストテスト	
6	疾患・症状別食事療法 ④腎・泌尿器疾患⑤栄養・代謝性疾患	講義 ポストテスト	
7	疾患・症状別食事療法 ⑥血液疾患 ⑦アレルギー疾患 ⑧精神・神経疾患	講義 ポストテスト	
	リハビリテーション		
8	リハビリテーションの定義と理念、リハビリテーションの対象と制度	講義 ポストテスト	金子敬太
9	疾病・障害・生活機能の分類、リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療の提供	講義 ポストテスト	
10	身体機能のアセスメント・障害の評価	講義 演習	
11	障害・状態別リハビリテーションの実施 【運動器・感覚器系】 関節可動域訓練、筋力増強運動、座位、立	講義 演習	
12	位、歩行訓練等	講義 ポストテスト	
13	障害・状態別リハビリテーションの実施 【中枢神経系】	講義 ポストテスト	
14	障害・状態別リハビリテーションの実施 【呼吸器系】 体位ドレナージ、呼吸法	講義 演習	
15	障害・状態別リハビリテーションの実施 【循環器系】 心臓リハビリテーション	講義 ポストテスト	
	筆記試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b>			
栄養学	ポストテスト(20点)	筆記試験(25点)	
リハビリテーション	ポストテスト(25点)	筆記試験(30点)	
<b>使用するテキスト</b>			
医学書院 系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③			
医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法			
医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
<b>参考文献</b>			

<b>分野</b> 専門基礎分野			
<b>科目名</b> 薬理学	<b>単位</b>	<b>1 単位</b>	<b>開講時期</b>
	<b>時間</b>	<b>30時間</b>	<b>2年前期</b>
<b>講師名</b> 桂林 秀太郎	<b>実務経験</b>		
<b>授業概要</b>			
<p>人体の構造と機能、疾病と治療についての理解をもとに、看護の臨床で活用できる医薬品の薬理作用と臨床効果に関する専門知識を習得する。各器官系の主要な疾病の原因・症状における薬物治療法を学び、根拠に基づいた看護実践の基礎となる薬理作用を学習する。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>1. 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について説明できる。 2. おもな薬物の特徴について説明できる。</p>			
<b>DPとの関連</b> 関連が深いもの◎、関連するもの○			
<p>○ 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 ◎ 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 ○ 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 ◎ 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 ○ 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。</p>			
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	薬理学の基礎	講義 ポストテスト	
2	受容体の反応	講義 ポストテスト	
3	自律神経作用薬	講義 ポストテスト	
4	筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義 ポストテスト	
5	中枢神経作用薬①	講義 ポストテスト	
6	中枢神経作用薬②	講義 ポストテスト	
7	加齢疾患治療薬	講義 ポストテスト	
8	抗菌薬	講義 ポストテスト	
9	抗ウイルス薬	講義 ポストテスト	
10	循環器に作用する薬物	講義 ポストテスト	
11	眼科用薬	講義 ポストテスト	
12	利尿薬	講義 ポストテスト	
13	泌尿器に作用する薬物	講義 ポストテスト	
14	呼吸器と消化器に作用する薬物	講義 ポストテスト	
15	物質代謝に作用する薬物	講義 ポストテスト	
	終了試験		
<b>受講上の注意</b>			
<p>准看護師課程で履修した解剖生理や疾患、薬理に関する学習を活用できるように復習しておきましょう。 テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 わからない語句や内容について調べておきましょう。</p>			
<b>評価方法</b>			
ポストテスト（30点）、筆記試験（70点）			
<b>使用するテキスト</b>			
吉岡光弘他著 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野5 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕 薬理学 2023			
<b>参考文献</b>			

<b>分野</b> 専門基礎分野			
<b>科目名</b>	社会保障・社会福祉	<b>単位</b>	<b>1単位</b>
		<b>時間</b>	30時間
		<b>開講時期</b>	1年次前期
<b>講師名</b>	田原豊治	<b>実務経験</b>	社会福祉士
<b>授業概要</b>	<p>かつての社会保障、社会福祉は、ともすれば特定の者を対象とする選別的な制度であったが、時代の変化に伴い、求められる社会保障、社会福祉の内容が変わりつつある。対象を一人の人間として総合的に支えるために必要な社会保障、福祉制度を理解し、保健、医療、福祉サービスの連携の為に必要な素養を得る。合わせて、現状と課題の理解を深める。</p>		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度の理念と制度の考え方が理解できる。</li> <li>2. 対象者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解できる。</li> </ol>		
<b>DPとの関連</b>	関連が深いもの◎、関連するもの○		
<input type="radio"/>	1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。		
<input type="radio"/>	2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。		
<input type="radio"/>	3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。		
<input checked="" type="radio"/>	4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。		
<input type="radio"/>	5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。		
<b>授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】</b>			
<b>時間</b>	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	社会保障の理念	講義・ポステスト	
2	社会福祉六法	講義・ポステスト	
3	保健医療福祉活動の基本	講義・ポステスト	
4	社会保険制度・社会保険の変遷	講義・ポステスト	
5	医療保険制度	講義・ポステスト	
6	介護保険制度	講義・ポステスト	
7	介護保険制度概要	講義・ポステスト	
8	年金制度	講義・ポステスト	
9	雇用保険法	講義・ポステスト	
10	労働者災害補償保険法	講義・ポステスト	
11	社会福祉の理念と変遷	講義・ポステスト	
12	公的扶助、障害者福祉論	講義・ポステスト	
13	児童、老人への施策	講義・ポステスト	
14	社会保険行政・保健福祉計画	講義・ポステスト	
15	社会福祉実践と医療・看護	講義・ポステスト	
	試験		
<b>受講上の注意</b>			
<b>評価方法</b>	筆記試験(70点)、ポストテスト(30点)		
<b>使用するテキスト</b>	医学書院 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度3 社会福祉		
<b>参考文献</b>			